

## 学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：乳児を科学的に観る：発達保育実践政策学の展開
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
  - ・共催：東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）
  - ・後援：日本発達心理学会 教育関連学会連絡協議会  
日本赤ちゃん学会 日本子ども学会（順不同）
- 3 開催日時：平成28年11月6日（日） 13時～17時30分
- 4 開催場所：日本学術会議講堂
- 5 開催趣旨：

本企画は日本学術会議第22期マスタープランに教育学分野の「学術の展望」に基づき提出した大型重点研究計画「乳児発達保育実践政策学研究教育推進拠点の形成」に基づく提案である。「子どもの睡眠」と「養育者のワーク・ライフ・バランス」というテーマから、子どもの発達と保育・養育環境、更にはそれらを取り巻く社会・文化的状況について検討した上で、よりよい保育の在り方とその実現のための政策について議論を深めた。
- 6 参加人数：231名  
講演者等：(登壇者14名、スタッフ7名)
- 7 特記事項：
  - ① 『日本教育新聞』（11月14日付）に本フォーラムの内容を紹介する記事が紹介された。
  - ② 本フォーラムの参加者アンケートにおいて、「今後、日本学術会議がこのテーマについて更に議論するフォーラムを開催した場合、参加しますか。」との設問に約8割が「する」と回答し、「参考になった」「勉強になった」「考える機会を得られた」との意見も多くみられた。本テーマへの関心の高さと本フォーラム継続開催の意義が確認できた。
  - ③ 事後の取組：当日の配布資料または発表資料をCedepウェブサイトに掲載・公表し、当日参加できなかった方が閲覧できるようにした。また、本フォーラムの報告書を関連領域の研究者・団体に送付し、当日参加できなかった関係者との間でも議論を行う予定である。さらに、本フォーラムでの議論を踏まえ、乳幼児期の睡眠のあり方や、親・保育者の労働環境とワーク・ライフ・バランスの問題について、ウェブサイトや書籍出版等を通じた社会的発信を継続して行っていく予定である。